

平成12年度病害虫発生予察注意報第2号

農作物名 早期水稻

病害虫名 斑点米カメムシ類

(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ミナミアオカメムシ)

1 予報内容

- (1) 発生地域 早期水稻栽培地域
- (2) 発生時期 出穂期～糊熟期
- (3) 発生程度 平年比 やや多

2 注意報発令の根拠

- (1) 6月中旬の休耕田、イタリアン、畦畔等でのカメムシ生息数は表1のとおりで、主要斑点米カメムシの平均密度は昨年より少ない状況であったが、発生状況は注意報を発令した昨年と同様な傾向で、早期水稻地帯では密度が平年に比べて高かった。
- (2) 調査の結果、優占種はクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ及びミナミアオカメムシで、いずれも斑点米を発生させる能力は高い種であった。特に、平成10年以前の6月の調査ではほとんど獲れていなかったミナミアオカメムシが、各地で捕獲された。ミナミアオカメムシは、主要4種の中でも斑点米の発生率が高い。
- (3) 早期水稻地帯においても、特に出穂期の早い品種に対して斑点米カメムシによる集中加害を受ける可能性が高い。

3 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類はイネ科雑草などで世代を繰り返す、水稻が出穂すると飛来して吸汁加害する。出穂期に見回り畦畔雑草や水稻で成虫を見かけたら、穂揃い期に防除を行う。また、多い場合は穂揃い期とその7～10日後に防除を行う。
- (2) 作期が混交している地域では集中加害を受けやすく、近年各地の早期水稻で斑点米の被害を出している。また、本虫の加害は少数でも品質に影響を与えるので、出穂期に成虫を見かけたら防除を徹底する必要がある。
- (3) 水田内、畦畔のイネ科、タデ科の雑草、周辺のイネ科飼料作物は、出穂10～20日前までに刈るか耕起除草する。なお、あまり遅くなると逆に水田に追い込むことになる。刈り取った雑草は、そのままにしておくとし息地となるので集めて処分する。
- (4) 使用薬剤は、県または地域の防除基準に従い使用回数、使用時期を厳守して農薬の安全使用に努める。